

この新聞は、思いのまま、流通経済大学の中で起きたことを「勝手に」取材し、気楽に編集して発行するメディアです。

〈略称: つなしん、と呼んでください〉

(気ままに発行するので、不定期です)



地域の「ニーズ」を流大生が聞き取り調査

体当たり「取材」、ドキドキの体験

街のニーズを探ろう。二〇〇四年に松戸市新松戸に新松戸キャンパスが開設されてから十九年、流通経済大学(上野裕一学長)に注がれる市民の視線はどのようなものを調べるため、「地域社会学」を受講する学生およそ六十人が二月三日、大学周辺の街角や商店を訪れ、聞き取り調査を試みた。

「地域社会学」の講義では、地域社会の一員になるためには、その場所への「帰属意識」が重要、との認識から、そうした意識がどのよ

うに醸成されるかを、体験的に学んでいる。今回は、新松戸を行き交う市民や商店で働く人などに「行き当たりぱったり」で声をかけ

ながら、①地域連携の視点から流経大に望むことや、②市民の方から新松戸での生活に関わる教えてほしい情報などを聞いた。



流経大そばの交差点で聞き取りを行う学生 (11月21日)

午前九時からの始業後、教室での打ち合わせを経て、この日の講義に出席した約六十人が一斉に街に飛び出し、市民の方からの聞き取りを開始した。制限時間は授業時間内の四十五分間。グループで聞き取る「チーム化作戦」、途中でバラバラになつて聞き取る「分散化作戦」、また大学周辺だけでなく、JR新松戸駅で待ち合わせ中の高校生にアタックするグループなど、「ハラハラドキドキの四十五分」が繰り返された。初めての体験に学生

は悪戦苦闘、中には八人の市民に断られ、九人目でインタビュールに成功した男子学生や、仕事中のペットシヨップの店員さんに手を合わせればかき話をする

園児が「であうアート展」を熱烈見学

流通経済大学と包括連携協定を結んでいる新松戸幼稚園(寺田美子園長)の園児たちが十一月十四日、流通経済大学を訪れ、「であうアート展」を鑑賞した。

園児たちはこの日、同月二十六日に開かれる「であう広場」に協力出展する、同園保有の「お神輿」と動物園での見学をもとに製作した「動物のオプジェ」をそれぞれ持って、大学を訪問した。幼稚園からの移動にあたっては、流経大社会学部の二、三年生がゼミ活動

いた女子学生も。指導教員の「インタビュールを挟んだ、この四十五分で君たちは変わる!」との言葉通り、それぞれが小さな「ドラマ」を演じ、知らない人と関係を結ぶことの難しさや協力をいただいた時のうれしさを実感したようだ。また学生の「フィールドワーク」の様子を来年度の「大

め、出版社のカメラ取材のほか、大学の広報誌を作成する朝日新聞出版の取材も行われた。学生に同行した同社の濱田ももこさんは「学生が奮闘する様子を拝見でき、有意義な時間でした」と話していた。『どのような地域のニーズが聞けたか、学生の「成果」は別途、紙面で展開します』



展示された作品に見入る新松戸幼稚園の園児たち

の一環として園児たち

と手をつないでサポ

トするなど、「教育連携」の試みもなつた。園児たちはお神輿などを同大一号館の入試課前のスペースに運んだあと、「RKUスクエア」で開かれている



同展会場を訪問、寺田園長の「普段は幼稚園生は入れないところなので、しっかり見ましよう」という呼びかけに、いささか緊張の面持ちで見入っていた。

編集後記
大学内のニュースを「気楽に」お伝えしようと自主創刊しました。ネタを募集しています。授業やゼミ活動、学生活動など、取材に伺います。連絡はryuzaki@fku.ac.jpまで